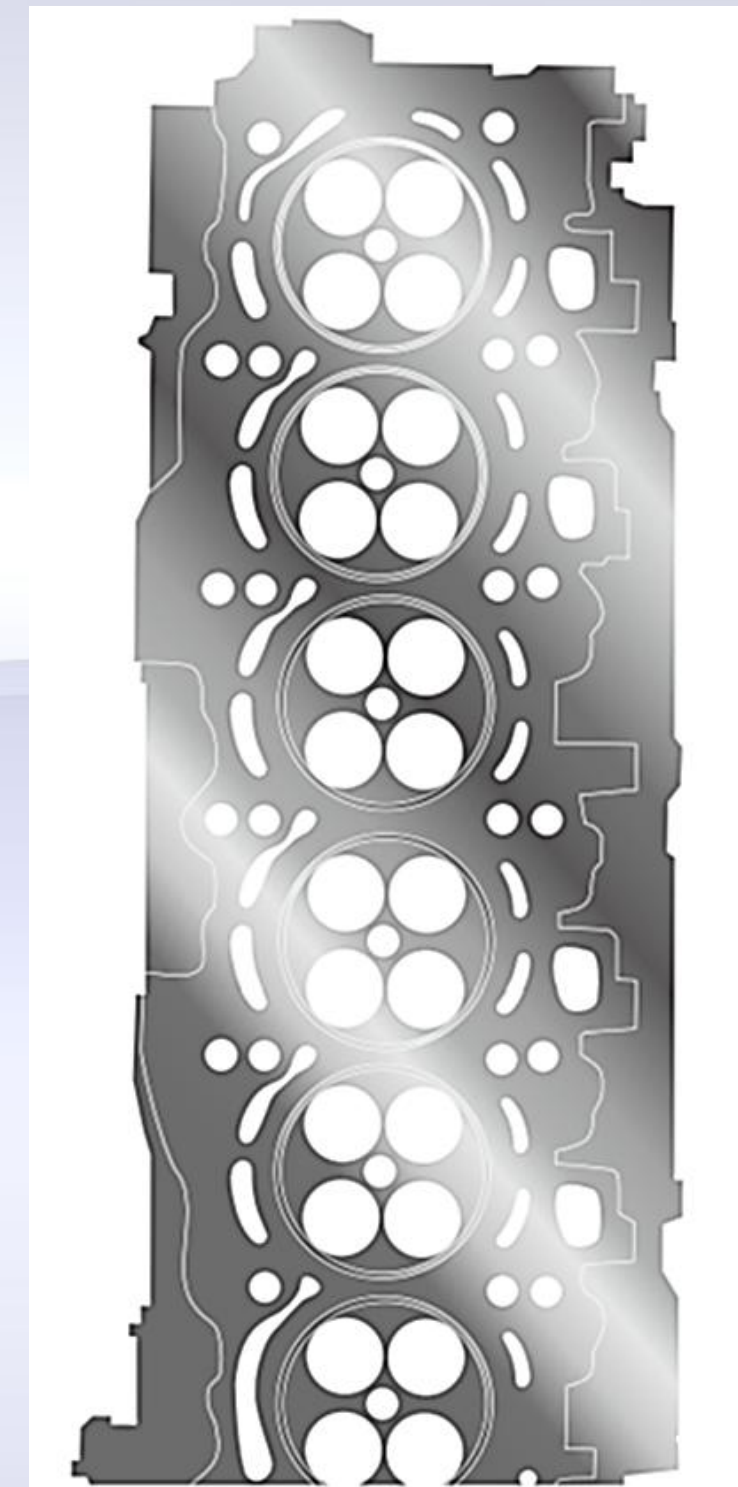


# 環境報告書 2025

## Environment Report 2025

### 【 目 次 】

|                  |           |    |
|------------------|-----------|----|
| ■ 企業理念           | - - - - - | 2  |
| ■ 会社概要・設備概要      | - - - - - | 3  |
| ■ 会社沿革           | - - - - - | 4  |
| ■ S D G s への取り組み | - - - - - | 5  |
| ■ 品質環境方針         | - - - - - | 6  |
| ■ 組織体制           | - - - - - | 7  |
| ■ 地球温暖化対策        | - - - - - | 8  |
| ■ 環境測定結果         | - - - - - | 10 |
| ■ 産業廃棄物排出量の推移    | - - - - - | 11 |
| ■ 化学物質の適正管理      | - - - - - | 12 |
| ■ 教育訓練の実施・社会貢献   | - - - - - | 13 |



# 原動力

## Locomotive

### 企業理念

川口内燃機鑄造株式会社は、1938年(昭和13年)に埼玉県川口市で創業以来、主に内燃機関用鑄物の製造を通じて、幅広いお客様に高品質な製品を提供してまいりました。

1998年には福島県田村市に生産拠点を移し、最新設備を導入することで生産性の向上と品質の安定を図っています。時代の変化や社会の要請に真摯に向き合い、ISO認証の取得や技術力の向上にも継続して取り組んでまいりました。

これからも、私たちは「お客様に信頼される会社」「社員が地域に誇れる工場」の実現に向け、全社員が一丸となり、誇りと責任を持って挑戦し続けます。

### 世界を動かせ

鑄造という技術を軸に、シリンダーヘッドやシリンダーブロックなど、エンジンの基幹部品を製造・供給する——それが私たち川口内燃機鑄造株式会社です。

創業以来培ってきた技術と経験をさらに磨き、お客様のニーズに応えるものづくりに取り組んでいます。社員一人ひとりが誇りと責任を持って挑戦し、技術で社会に貢献したいという想いを胸に、日々の仕事に向き合っています。

地域を、社会を、そして世界を私たちは“ものづくり”の力で動かしていきます。

その熱い思いこそが、未来を切り拓く原動力です。

# 会社概要・設備概要



## 会社基本情報

社名 川口内燃機鑄造株式会社(かわぐちないねんきちゅうぞう)  
所在地 ◇ 本社・川口事務所  
埼玉県川口市朝日1丁目6番14号  
◆ 福島工場  
福島県田村市滝根町広瀬字舟ヶ作3番8号  
設立 1938年9月(創業87年)  
資本金 1億円  
代表者 代表取締役社長 伊東 裕寿  
事業内容 普通鑄鉄、低合金鑄鉄、CV鑄鉄の製造販売  
生産能力 2,000t/月  
従業員数 261名(2026年3月現在)  
売上高 71億円(2026年3月期)



## 生産能力と規模

工場敷地 84,480m<sup>2</sup>(25,555坪)  
工場建屋 17,176m<sup>2</sup>(5,196坪)  
溶解設備 高周波炉3t3基、0.75t1基  
低周波炉10t1基  
造型設備 APK生型静圧造型機1基  
自硬性無砂造型機1基、ロボット4基  
中子設備 シェルマシン17基  
中子乾燥炉2基、ロボット5基  
仕上設備 ショットブラスト7基、デコラ3基  
焼鈍炉2基、塗装ライン1式  
検査設備 分光分析器、耐力測定装置  
3Dスキャナー

# 会社沿革

1938年の創業以来、一貫して各種内燃機関・圧力機械等の高精度鋳物を製造、難易度の高い複雑な鋳物を製造する当社の技術力が評価され、1958年には旧国立競技場の聖火台の製作を手掛けました。

1998年に福島工場を新設し生産拠点を全面移管、2008年にはISO9001(品質)2009年にはISO14001(環境)の認証を取得、2019年にはCCS中国船級協会の認定工場を取得し、国際規格に沿った「ものづくり」を進め、「お客様に信頼される企業」を目標に鋭意努力しています。

1938年(昭和13年)  
埼玉県川口市に「川口内燃機鋳造」を創業



1958年(昭和33年)  
皇太子殿下(平成天皇)行啓



2008年(平成20年)ISO 9001 認証取得  
2009年(平成21年)ISO14001認証取得



2024年(令和6年)  
ISO9001・ISO14001 再認証

1

2

3

4

5

6

7



1958年(昭和33年)  
国立競技場の聖火台を製作(東京オリンピックで使用)



1998年(平成10年)  
福島工場へ生産拠点を全面移管



2019年(平成31年)  
CCS中国船級協会認定工場取得

※ 船級協会(せんきゅうきょうかい)  
船舶の船体・艀装・機関について、その構造や現状が  
良好な状態にあると認め、船級の登録に関する規則  
を定め、その検査を行う機関です。

# SDGsへの取り組み

当社は鋳鉄鋳物製造の専門企業として、産業廃棄物削減や資源保護など環境に配慮した活動を推進し、SDGsを通じて信頼される工場を目指しています。また、生産活動だけでなく、リサイクルや省エネ、社員の福利厚生など、企業のあらゆる行動がSDGsにつながると考え、地域に根ざした企業を目指して積極的に取り組んでいます。



## リサイクル産業としての鋳造

材料は多くの産業から生まれる金属スクラップを活用し、造型に使用した砂は再生し何度も利用するなど、積極的なリサイクルに取り組んでいます。

有限な素形材を可能な限り持続させる努力を惜しみません。



金属スクラップ



故鉄(再溶解) 鉄鉄

## 外国人技能実習生の受入れ

2018年5月からインドネシア人技能実習生の受け入れを開始し、2026年3月時点で34名が技術習得に励んでいます。

2020年10月には全室個室の実習生専用寮を新築し、異国での生活や文化・宗教の違いによるストレスを軽減し、安心して実習できる環境づくりに努めています。



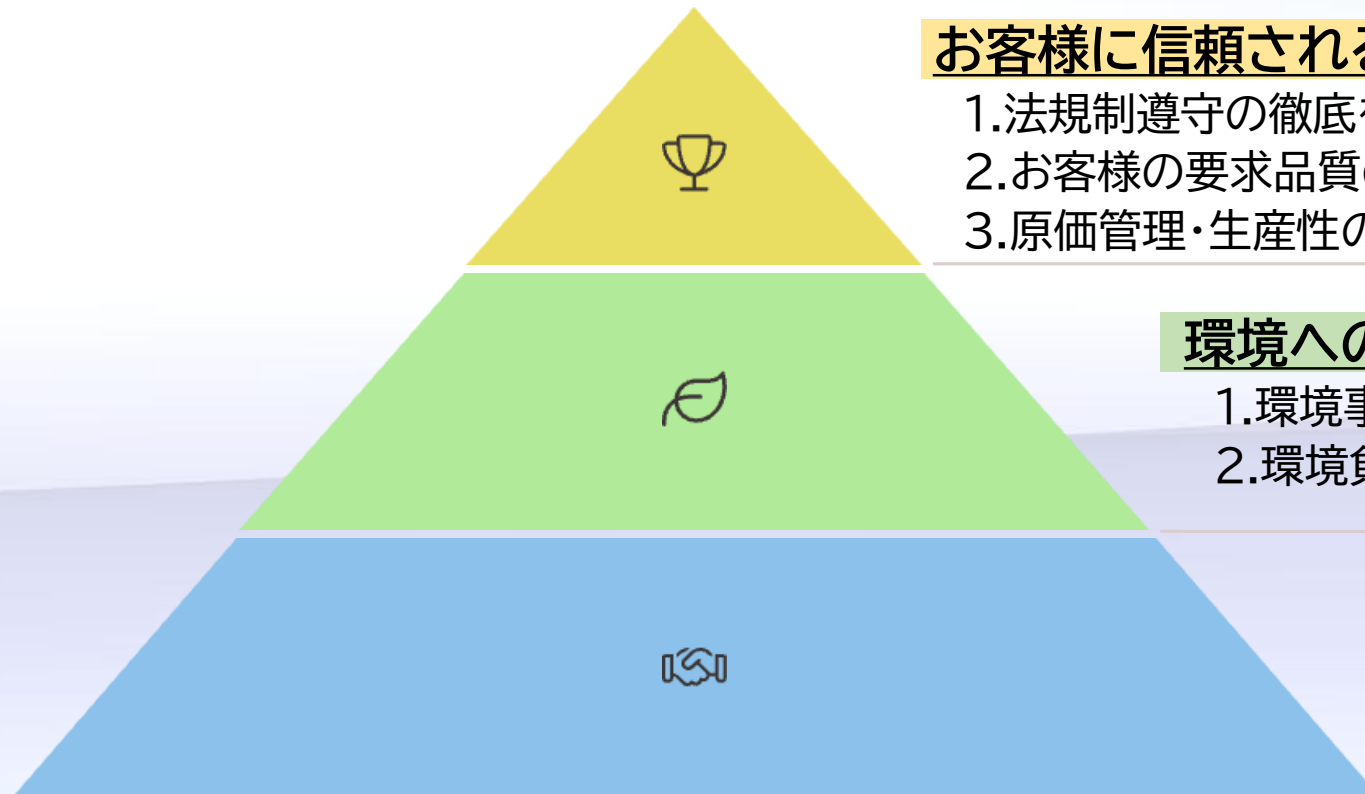
## ペットボトルキャップの回収

食堂や休憩所にキャップ回収箱を設置し、集めたキャップをNPO法人エコキャップ推進協会へ送付しています。

これにより、リサイクル促進、CO<sub>2</sub>削減、障がい者や高齢者の雇用促進、売却益による発展途上国の医療支援などに貢献しています。



# 品質環境方針



## お客様に信頼されるために

- 1.法規制遵守の徹底を図る
- 2.お客様の要求品質の確保と向上を図る
- 3.原価管理・生産性の向上で、最適な価格の提供を図る

## 環境への配慮

- 1.環境事故に繋がる要因の管理と、環境汚染防止を図る
- 2.環境負荷低減のため、資源の有効活用を促進を図る

## 社会との共生

- 1.法規制遵守の徹底を図る
- 2.安全な職場を確立し、無災害の達成を図る

当社は「お客様に信頼され、社員に誇りと安心感を与え、選ばれ続ける会社を目指す」を基本理念とし、誠実なものづくりを通じて信頼される品質の確立と環境負荷の低減に取り組めます。

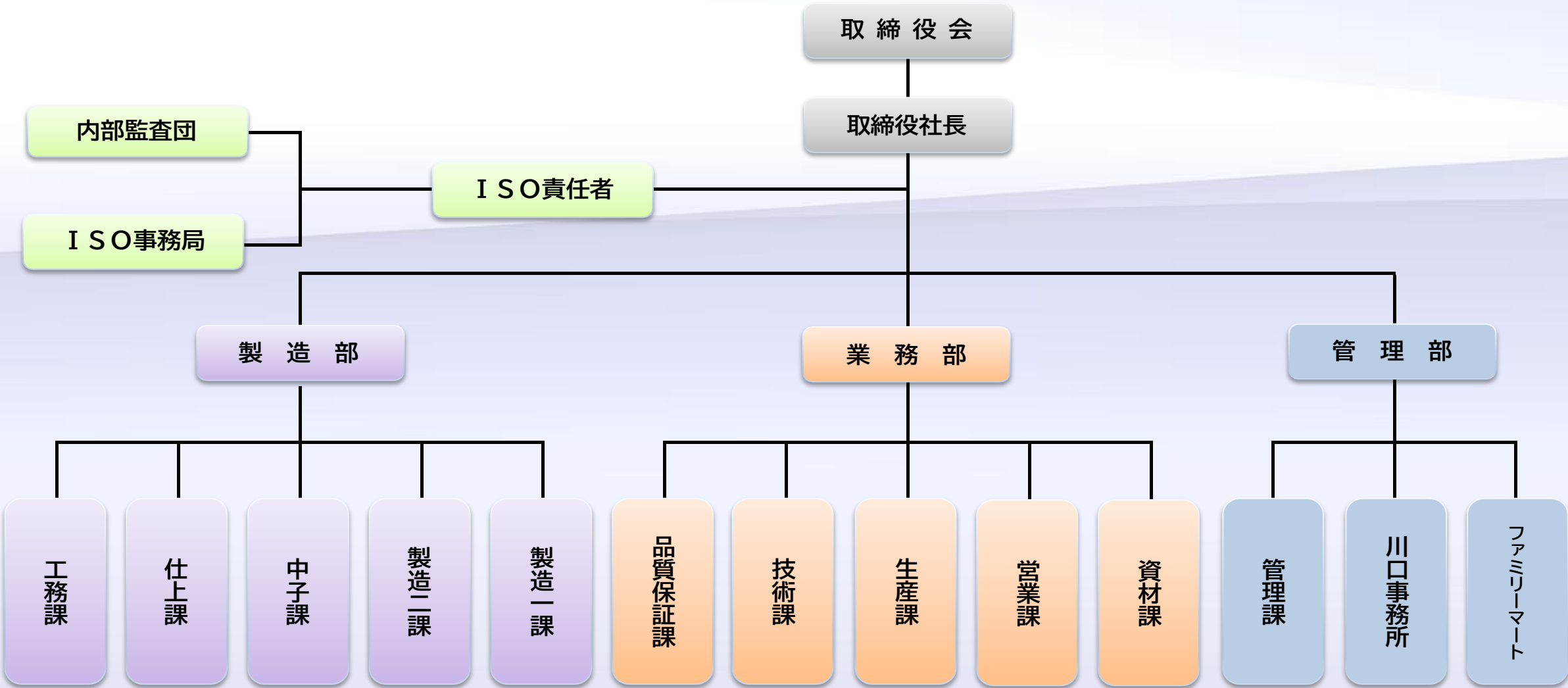
ルール遵守と真因追究により信頼される品質を確立するとともに、省エネルギーや環境改善、クリーンな工場づくりを推進し、社会に貢献する企業活動を継続します。

代表取締役社長 伊東 裕寿

# 組織体制

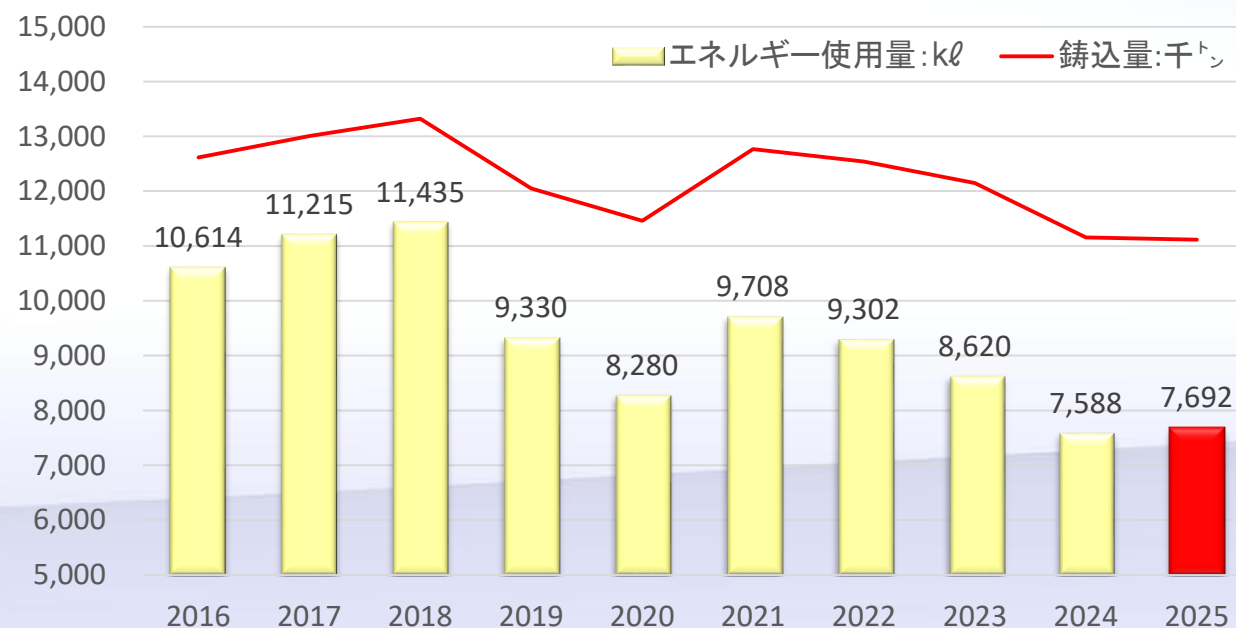
令和8年3月21日付

川口内燃機鑄造株式会社 組織図



# 地球温暖化対策

## ◆ エネルギー使用量の推移(原油換算量)



## ◆ エネルギー原単位の推移



## 省エネ・原単位低減への取り組み

当社は、省エネ法に基づく「第1種エネルギー管理指定工場」として、省エネ委員会を中心にエネルギー使用状況の把握と改善活動を継続しています。溶解炉や動力設備の運転管理の見直し、LED照明の導入などを通じて、効率的なエネルギー利用に努めています。

2025年度は、鋳込量が前年度と概ね同水準で推移したものの、生産品目構成や設備稼働状況等の影響により原単位は上昇しました。一方で、工程運営や設備管理による省エネルギー活動は継続して実施しており、今後も効率的なエネルギー利用の推進と原単位の低減に努め、環境負荷の低減に取り組んでまいります。

## 省エネ法における評価制度

当社は、2025年度提出(2024年度実績)の省エネ法定期報告に基づく事業者クラス分け評価制度において、昨年度に続き

**『省エネ優良事業者(Sクラス)』**

として評価されています。

※2021年より5年連続

# 地球温暖化対策

## ☆ CO<sub>2</sub>削減への取り組み

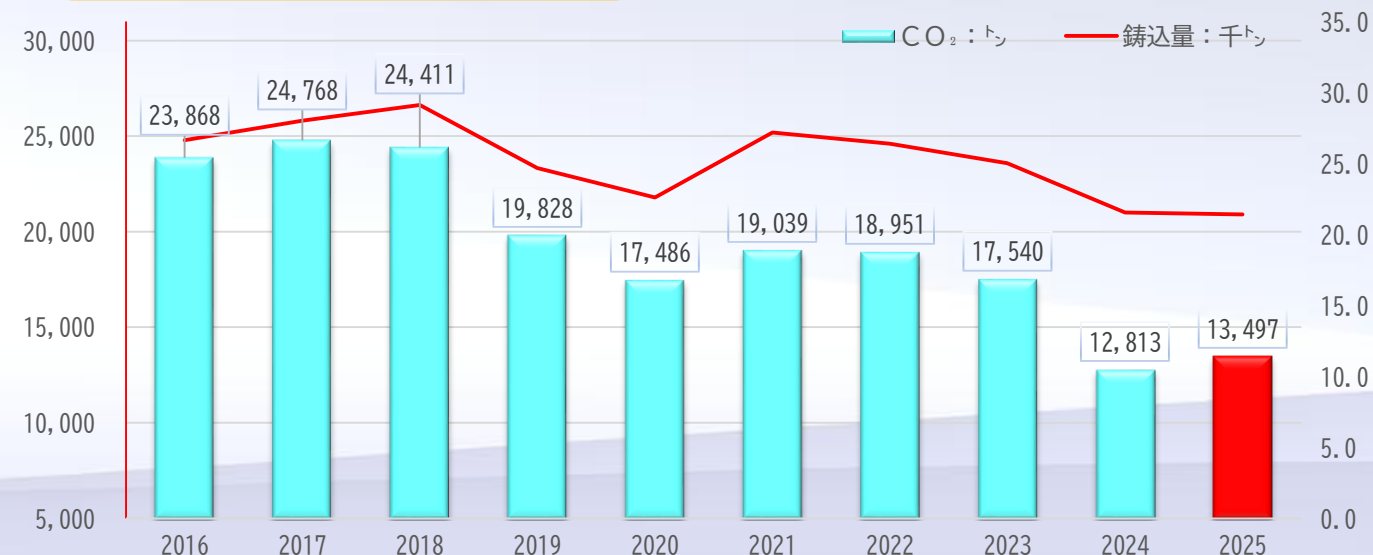
当社は地球温暖化対策の一環として、エネルギー使用の合理化や設備・装置の省エネ化、物品輸送におけるモーダルシフト(※)の推進など、CO<sub>2</sub>排出量の削減に継続して取り組んでいます。

2025年度のCO<sub>2</sub>排出量は、生産活動や設備稼働状況等の影響により前年度を上回る結果となりました。

一方で、中長期的には減少傾向を維持しており、2021年度と比較すると約29%削減されています。

今後もエネルギー使用の効率化や設備改善を推進し、CO<sub>2</sub>排出量の更なる低減に努めてまいります。

## ◆ CO<sub>2</sub>排出量の推移



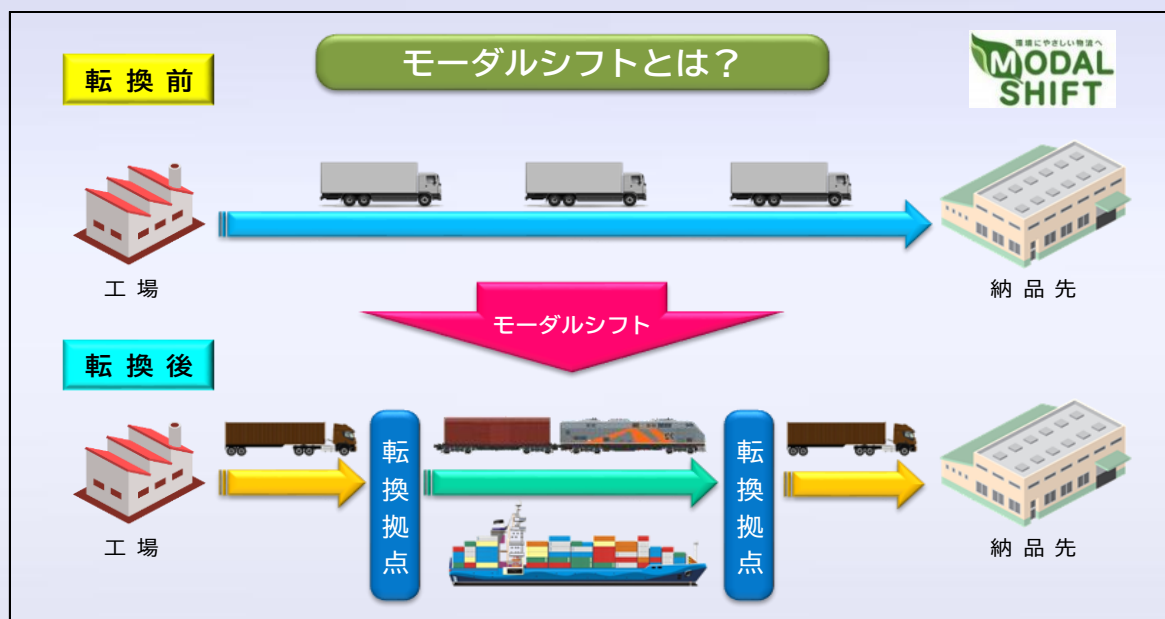
## ☆ エコキャップ運動

当社では、2020年12月よりエコキャップ運動をスタートしました。

キャップ1kg(約430個)をゴミとして焼却処分した場合、約3150gのCO<sub>2</sub>が発生すると言われています。

当社の2026年3月までの累計回収量は356kg(約153,166個)で、約1,122kgのCO<sub>2</sub>を削減した計算になります。

今後も運動を継続し、CO<sub>2</sub>の削減に努めてまいります。



※モーダルシフトとは、トラック等の自動車で行われている貨物輸送を、環境負荷の小さい鉄道や船舶の利用へと転換することをいいます

# 環境測定結果

## 環境測定の実施

当社では、事業活動に伴う環境への影響を把握・管理するため、大気、水質、騒音、臭気等について、法令や社内基準等に基づき適切な環境測定を実施しています。測定にあたっては、必要に応じて専門の測定機関に委託するなど、適切な測定・管理に努めています。



| 項 目 |                            | 設備等       | 単位                  | 規制値       | 2025年度 実測値 |          | 2024年度 実測値 |         | 2023年度 実測値 |        |
|-----|----------------------------|-----------|---------------------|-----------|------------|----------|------------|---------|------------|--------|
|     |                            |           |                     |           | 上期         | 下期       | 上期         | 下期      | 上期         | 下期     |
| 大気  | ばいじん                       | 溶鋇炉用集塵機   | g / Nm <sup>3</sup> | 0.20      | 0.001未満    | 0.001未満  | 0.001未満    | 0.001未満 | 0.0009     | 0.0009 |
|     | ばいじん                       | 1号熱処理炉    | g / Nm <sup>3</sup> | 0.20      | 0.001未満    | 0.001未満  | 0.001未満    | 0.001未満 | 0.0010     | 0.0007 |
|     | NOX                        |           | ppm                 | 180       | 45         | 65       | 32         | 32      | 39         | 39     |
|     | ばいじん                       | 2号熱処理炉    | g / Nm <sup>3</sup> | 0.20      | 0.001未満    | 0.0025未満 | 0.001未満    | 0.001未満 | 0.0010     | 0.0055 |
|     | NOX                        |           | ppm                 | 180       | 51         | 59       | 38         | 28      | 47         | 42     |
| 水質  | PH                         | 水素イオン濃度   | pH                  | 5.8 ～ 8.6 | 7.1        | 6.9      | 6.8        | 6.4     | 6.6        | 7.2    |
|     | BOD                        | 生物学的酸素要求量 | mg / ℓ              | 20 (15)   | 4.0        | 17.0     | 3.8        | 4.0     | 5.0        | 1.4    |
|     | SS                         | 浮遊物質      | mg / ℓ              | 70 (50)   | 検出せず       | 検出せず     | 1.4        | 2.0     | 3.8        | 検出せず   |
|     | 油分含有量                      | 鋇物油       | mg / ℓ              | (0.5)     | 検出せず       | 検出せず     | 検出せず       | 検出せず    | 検出せず       | 検出せず   |
|     |                            | 動植物油      | mg / ℓ              | 10        | 検出せず       | 検出せず     | 検出せず       | 検出せず    | 検出せず       | 検出せず   |
| 騒音  | 騒音測定15ヶ所<br>※最も値の高かった地点の数値 | 昼：        | dB                  | 60        | 50         | 50       | 50         | 54      | 47         | 51     |
|     |                            | 夜間：       | dB                  | 50        | 46         | 44       | 47         | 48      | 47         | 45     |
| 臭気  | 臭気指数測定                     | 敷地境界線4ヶ所  | 臭気指数                | 18        | —          | 10未満     | —          | 10未満    | —          | 10未満   |

# 産業廃棄物排出量の推移

## 産業廃棄物の適正な把握

生産活動ではさまざまな種類の廃棄物が発生します。  
当社では、生活環境の保全及び有効利用の観点から、廃棄物排出量の適正な把握に加え、循環資源としてリユース・リサイクル及び適正処分の推進に取り組んでいます。

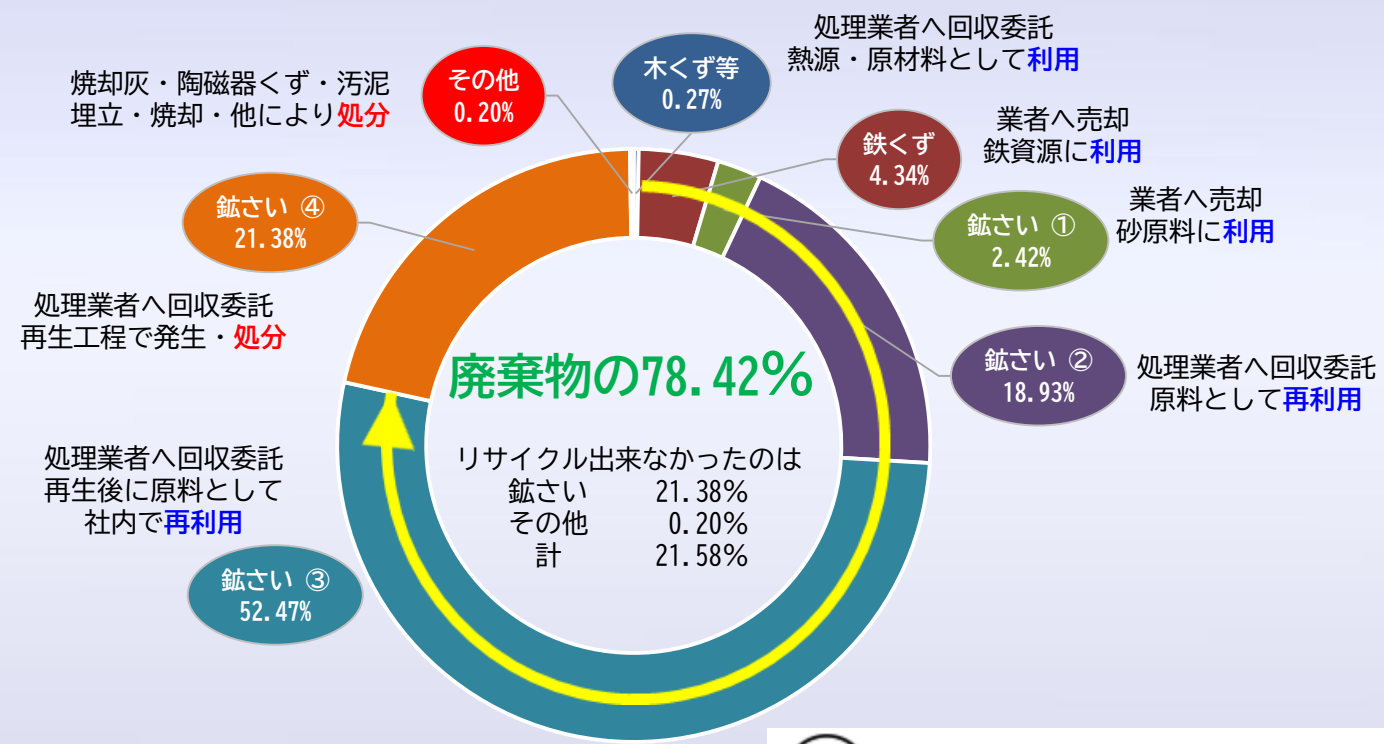
| 産廃種類     | 年度     | 発生量       | 排出量       |          |       |       | 売却量    | 再利用の内<br>当社リサイクル |
|----------|--------|-----------|-----------|----------|-------|-------|--------|------------------|
|          |        |           | 再利用       | 埋立処理     | 焼却処理  | 化学処理  |        |                  |
| 鋳さい      | 2025年度 | 12,580.00 | 9,435.00  | 3,145.00 | -     | -     | 386.00 | 6,934.00         |
|          | 2024年度 | 13,418.00 | 10,237.00 | 2,777.00 | -     | -     | 404.00 | 7,260.00         |
|          | 2023年度 | 16,273.00 | 12,533.00 | 3,361.00 | -     | -     | 379.00 | 9,073.00         |
| 焼却灰      | 2025年度 | 6.40      | -         | 6.40     | -     | -     | -      | -                |
|          | 2024年度 | 1.60      | -         | 1.60     | -     | -     | -      | -                |
|          | 2023年度 | 4.80      | -         | 4.80     | -     | -     | -      | -                |
| 陶磁器くず    | 2025年度 | 2.30      | -         | 2.30     | -     | -     | -      | -                |
|          | 2024年度 | 1.70      | -         | 1.70     | -     | -     | -      | -                |
|          | 2023年度 | 2.50      | -         | 2.50     | -     | -     | -      | -                |
| 木屑       | 2025年度 | 14.80     | 14.80     | -        | -     | -     | -      | -                |
|          | 2024年度 | 73.10     | 73.10     | -        | -     | -     | -      | -                |
|          | 2023年度 | 70.40     | 63.90     | -        | -     | -     | 0.50   | -                |
| ガラス屑     | 2025年度 | 2.30      | -         | 2.30     | -     | -     | -      | -                |
|          | 2024年度 | 0.10      | -         | 0.10     | -     | -     | -      | -                |
|          | 2023年度 | 0.00      | 0.00      | -        | -     | -     | -      | -                |
| 廃プラスチック類 | 2025年度 | 18.20     | 18.20     | -        | -     | -     | -      | -                |
|          | 2024年度 | 16.40     | 16.40     | -        | -     | -     | -      | -                |
|          | 2023年度 | 15.20     | 15.20     | -        | -     | -     | -      | -                |
| 金属屑      | 2025年度 | 573.00    | -         | -        | -     | -     | 573.00 | -                |
|          | 2024年度 | 509.00    | -         | -        | -     | -     | 509.00 | -                |
|          | 2023年度 | 877.00    | -         | -        | -     | -     | 877.00 | -                |
| 汚泥       | 2025年度 | 17.80     | -         | -        | 17.80 | -     | -      | -                |
|          | 2024年度 | 26.90     | -         | -        | -     | 26.90 | -      | -                |
|          | 2023年度 | 22.80     | -         | -        | 22.80 | -     | -      | -                |

単位：トン/年

## 産業廃棄物排出量の推移



## 廃棄物の内訳・リサイクル状況



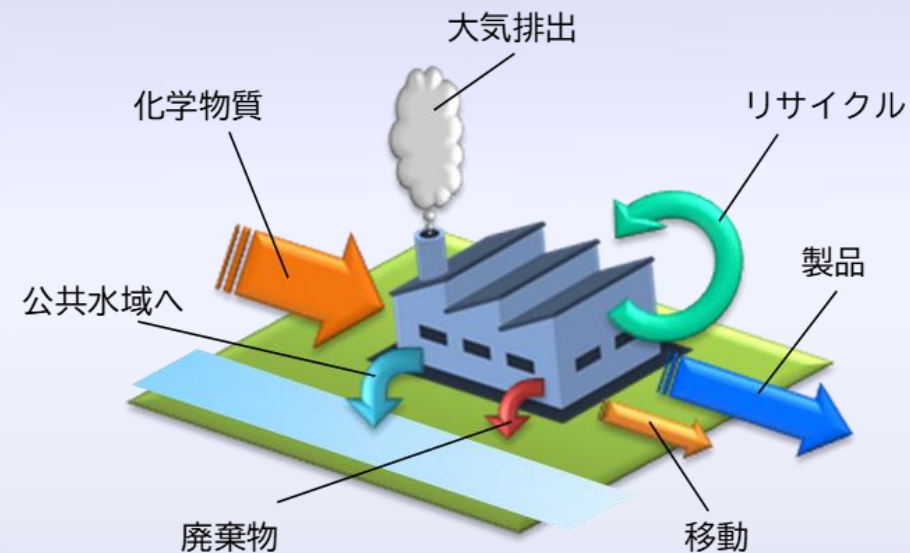
# 化学物質の適正管理

## PRTR法に基づく化学物質管理

当社では、PRTR法(※)に基づき、指定化学物質の取扱い状況を適切に把握するとともに、製造工程等から環境中へ排出される量や事業所外へ移動する量を算出し、化学物質の使用状況や排出・移動の状況を継続的に確認しています。

また、適正な取扱いと環境負荷の把握に努め、法令に基づく届出を行っています。

## PRTR管理システムのイメージ



※PRTR法:特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律

## PCB廃棄物の管理

当社では、PCB(ポリ塩化ビフェニル)含有が疑われる使用済みコンデンサー等の電気機器について、関係法令に基づき必要な調査を行い、PCBの含有が確認されたものについては、関係各所への届出を行うとともに、適正な管理・保管を実施しています。

また、PCB廃棄物については、法令で定められた処理期限を踏まえ、適正な処理・処分に向けて対応しています。

## 化学物質事前評価制度について

当社では、環境マネジメントシステムの一環として、新規化学物質を正式に採用する前に、環境面や安全性等について事前評価を実施しています。

事前評価の結果を踏まえ、環境への影響や安全面等に配慮した化学物質の選定を行い、必要に応じて代替品を検討するなど、化学物質の適正な管理に努めています。

### 化学物質事前評価制度



# 教育訓練と地域活動



## 社員教育

若手社員向けオンライン研修や管理職向け人事評価制度研修を実施し、従業員のスキルアップを支援しています。



## 技能実習生教育

技能実習生に対しては、入社時教育や特別教育を実施し、OJTトレーナーによる丁寧な指導を行っています。



## 国際交流活動

企業として社会貢献に取り組む中で、地域の小学校を訪問し、文化を分かち合う国際交流の時間を過ごしました。

当社では、社員の能力開発と安全意識の向上のため、様々な教育訓練を実施しています。  
これらの活動を通じて、社員が地域に誇れる工場づくりを推進しています。

# 教育訓練と地域活動



## 消火訓練

消火訓練を通じて、社員一人ひとりの防災意識を高め、より安全な職場環境の実現に努めています。



## 危険物緊急対応訓練

定期的な危険物対応訓練を通じて、取り扱う全ての社員がそのリスクを正しく理解し、安全な手順を厳守できるよう努めています。



## 緊急事態対応訓練

汚染物質流出時の対応訓練など、様々な緊急事態に備えた訓練を定期的実施しています。

当社では、社員の能力開発と安全意識の向上のため、様々な教育訓練を実施しています。  
これらの活動を通じて、社員が地域に誇れる工場づくりを推進しています。